

◇「品詞(ひんし)」とは？ → 名詞(めいし)、動詞(どうし)、形容詞(けいようし)…など、  
「単語」をグループ分けしたもの。  
例えば、「リンゴを食べる」の「リンゴ」は名詞、「食べる」は動詞。

日本語の「品詞」は十種類(分け方によっては十一種類)あります。

まずはその中でも、「最もわかりやすい、つかみやすい、重要、役に立つ」(と言っていい！たぶん！)、  
最強の二人！ ツートップ！v(^▽^)v

「**名詞**」と「**動詞**」について学びましょう♪

《例えば、こういう単語が名詞！》

リンゴ	本	時計	雑誌	車	CD	サンダル	魚	パンダ	ヒマワリ
東京	北海道	ロンドン	旅行	夏休み	宿題	勉強	昼寝	プール	
うれしさ	悲しみ	幸せ	運命	苦しみ	痛み	忍耐(にんたい)	感謝		

《例えば、こういう単語が動詞！》

食べる	歩く	走る	泳ぐ	飛ぶ	跳ねる	転ぶ	起きる	寝る	笑う
泣く	怒る	ねたむ	見る	聞く	知る	来る	受ける	落ちる	落とす
勉強する	昼寝する	協力する	安心する	心配する	ブレイクする				

↓

つまり、どういう単語が名詞？ どういう単語が動詞？ 自分の言葉で説明してみよう！ >(・▽・)

…そうそう！ たぶんそれ正解！ きっと何となくイメージはつかめているよね(^o^)

正解はぜひ、教科書の「文法(品詞)」のページで調べてみてね。どんなふうに説明されているかな？

ちなみに、「勉強」「昼寝」は名詞で、「勉強する」「昼寝する」となると動詞…なんだね。(.)

 **練習問題**  次の文中の \_\_\_\_\_ 線の語が、名詞か動詞かを答えなさい。

- ・ 私は毎日、日記を書く。 私( ) 日記( ) 書く( )
- ・ 昨日 ユミは学校に行き、数学を勉強した。 ユミ( ) 学校( )  
行き( ) 数学( ) 勉強し( )

この問題ができた人は、名詞と動詞の区別はばっちりだね。その理解で良いよ(^▽^)

ところで、この問題に取り組んでみて、

「名詞と動詞の違い」について、イメージ(意味)の違いの他に、何か気がついたことはあるかな？

(・▽・) <「行き」って、「行く」のこと？ だから動詞だよな？

「勉強し」って「勉強する」がちょっと変化した形なのかな？

(線が引いてあるのが「勉強」だけだったら名詞だな…と気がついたあなた！ すばらしい(≧▽≦))

…などと考えながら問題に答えたあなた！

実はそれが、名詞と動詞のとても大きな「文法的な違い」なのです。No. 2 を見てみてね(^o^)\_□

◇「活用(かつよう)」とは？

- ・**動詞**は、「行き(←もともとは「行く」)」、「勉強し(←もともとは「勉強する」)」など、  
活用が「**ある**」(「活用する」)。
- ・「私」「日記」「ユミ」「学校」「数学」など、**名詞**は、活用が「**ない**」(「活用しない」)。

こういうのをやってみると、さらにわかるかな？

・ \_\_\_\_\_ は、\_\_\_\_\_ を \_\_\_\_\_ だり、\_\_\_\_\_ を \_\_\_\_\_ たりして毎日 \_\_\_\_\_ ている。  
           ↑                  ↑                  ↑                  ↑                  ↑                  ↑  
         私                  本                  読む                  料理                  作る                  暮らす

それぞれ、ちょうどよい形にして当てはめてみてね。

変えなくてもよい、というか変えようがない単語もあるよね。

こういう問題をやってみると、動詞は「活用がある(活用する)」、  
名詞は「活用がない(活用しない、というか、できない)」ということがつかめるよね♪

↓

さあ！「活用」とはどういうこと？ 自分の言葉で説明してみよう！>(・▽・)

( )

…そうそう！ たぶんそれ正解！（たぶんね）

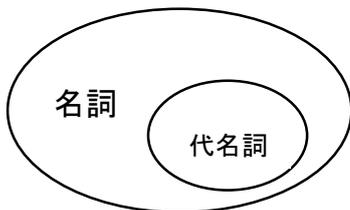
教科書で「活用」はどう説明されているか、あらためて調べてみよう。きっと納得できるよ(^o^)

名詞、動詞も含めて、全部で十種類(数え方によっては十一種類)ある「品詞」の区別をする時、  
「活用する」か「活用しない」かが重要な分かれ目になることがあるので、  
活用する(活用がある)品詞、活用しない(活用がない)品詞、これから先の勉強でしっかりつかんでね。

=====

◇「代名詞(だいめいし)」とは？

図で表すと、こんな感じ。



「名詞」のグループの中に「代名詞」という小さいグループがあって、  
両方まとめて「名詞」という1つの品詞として扱う考え方と、  
名詞・代名詞を別々の品詞として扱う考え方があります(こちらの考え方で  
いくと、「品詞」は十一種類あることになります)。

…まあ要するに、「代名詞」も名詞の一種。どんな特徴があるかな？

《例えば、こういう単語が代名詞！》

これ	それ	あれ	どれ	ここ	そこ	こいつ	あいつ	こちら	そちら
私	あなた	彼	彼女	彼ら	僕	俺	貴殿(きでん)	貴様(きさま)	

例文) それ、私にちょうだい。

↓ ↓

「それ」も「私」も、本当は「チョコレート」とか「○田△子」とか、ちゃんと名前(名詞)があるはず。  
つまり、「名詞の代わりに使う」のが、**代名詞**なのだ！

これも名詞の仲間として、覚えておいてね(^o^)

◇ 動詞は活用が「ある」(「活用する」)よ！

その「活用」のしかた(活用の様子)をしっかり「口ずさめる」ようになることがポイント！>(^▽^)

教科書の文法(品詞、動詞)ページに、たぶんこのような表が載っていることでしょう。

書く	
書か	語幹 ごかん
こ か	ウ ナイ 未然形 ヨウ
いき	タ マス 連用形
く	終止形
く	トキ 連体形
け	バ 仮定形
け	命令形

隅から隅まですっかり同じではないと思うけど、このような表、見つけたかな？  
「書く」ではなく、別な動詞が使われているかもしれないね。

・「語幹(ごかん)」とは：単語(動詞なら動詞)の、活用されない部分。  
例えば「書く」という動詞なら、「書かない」「書きます」など、  
「書く」の“く”の部分が変化していき、「書(か)」の部分は変化しないよね。  
↑ここが「語幹」。

・「未然形」「連用形」などの隣にあるカタカナの語は、  
その語につながるように、動詞を活用させてね>(・▽・) という語。

例えば、「未然形(みぜんけい)」は、  
書く + ナイ → 書“か”ない 書く + ウ → 書“こ”う  
だから、「か」と「こ」が表の中に入っているというわけ。

「連用形(れんようけい)」「連体形(れんたいけい)」「仮定形(かていけい)」  
についても、なるほど、なるほどと思いながら確認してね(^o^)

・「終止形(しゅうしけい)」は、「。(まる、読点)」につながる形。  
「言い切りの形」などと書かれているかも。  
「書く」という動詞なら、「書く。」ね。英語で言えば「原形」。  
つまり、何も変化していない、辞書に載っている時の形ね。

・「命令形(めいれいけい)」は、文字通り、命令する時の形。  
書け。読め。歩け。走れ。泳げ。跳べ。(▽)疲れてきたね。休め休め。

「活用」の表の見方をつかめたら、いろいろな動詞をどんどん活用させて、口ずさんでみよう♪

《例えば、「書く」、「読む」という動詞を活用させると…》

書かない、書きます、書く、書くとき、書けば、書け、(上に戻って)

書こう、書いた

読まない、読みます、読む、読むとき、読めば、読め、(上に戻って)

読もう、読んだ

「上に戻って」というのは、表に沿って未然形(ナイ)、連用形(マス)…と下がって行って、命令形までいったらまた上に戻って、未然形の「ウ、ヨウ」、連体形の「タ」につなげる、という流れになっているんだよ。

上に戻らない口ずさみ方もたぶんあるけど、この「上に戻って」という流れのほうが、次(No. 4)の「動詞の活用の種類」というのがつかみやすくなるので、ここではお勧めします(^▽^)

📖 練習 📖 他にもいろいろな動詞を活用させて、口ずさんでみてね！口ずさまない、口ずさみます…♪

◇ 動詞の「活用」の話の続き！

No. 3「動詞の活用表」プリントの最後で、このように口ずさんでみましたね。

《例えば、「書く」、「読む」という動詞を活用させると…》

書かない、書きます、書く、書くとき、書けば、書け、(上に戻って)

書こう、書いた

読まない、読みます、読む、読むとき、読めば、読め、(上に戻って)

読もう、読んだ

「書く」という動詞の活用のしかた(書かない～書いた)の中に、

「かきくけこ」が隠れているのがわかるかな？

「か き く く け け こ (い)」となっているのがわかるかな？

↑この「い」はまあ「おまけ」ということで(^\_^)

じゃあ、「読む」という動詞の活用のしかた(読まない～読んだ)の中には、

「かきくけこ」ではなく、何が隠れているかな？ さしすせそ？たちつてと？それとも？

→ 答えは「解答」プリントにて♪

☆このように、「かきくけこ」や「たちつてと」などの五音が含まれる動詞の活用のしかたを、

**五段活用**(ごだんかつよう)といいます(^▽^)

↳ さらに細かく分けて、例えば、かきくけこが含まれれば「カ行(かぎょう)五段活用」、たちつてとが含まれれば「タ行(たぎょう)五段活用」、と呼んだりもするよ。

📝 **練習** 📌 次の五音が活用に含まれる動詞を、下の選択肢から探してみよう！

- かきくけこ : ( )
- さしすせそ : ( ) たちつてと : ( )
- なにぬねの : ( ※選択肢の中にはないよ！自分で考えてみて♪ → )
- まみむめも : ( ) らりるれろ : ( )
- わいうえお : ( ※選択肢の中にはないよ！自分で考えてみて♪ → )
- がぎぐげご : ( ) ばびぶべぼ : ( )

《選択肢》

走る	歩く	跳ぶ	泳ぐ	打つ	消す	飲む	食べる	作る
見る	聞く	流す	流れる	落ちる	落とす	勉強する	勝つ	来る

… この中には、五段活用ではない動詞もあるからね！

そういう動詞はここでは選ばないでね。

↓

五段活用ではなかった動詞はどれかな？

(・▽・) < 五段活用じゃないなら、何活用なんだろう？ 次のプリント(No. 5)で学んでみよう♪

◇ 動詞の「活用の種類」は、五段活用の他にもある！

前のプリント(No. 4)で、五段活用ではなかった動詞がいくつかありましたね。

それらの活用の様子を、表に入れながら見てみようφ(^o^ ) 空欄は自分で活用させてみてね！

来る	協力する	勉強する	見る	起きる	落ちる	流れる	食べる	
※		勉強 <small>べんきょう</small>	※		落 <small>お</small>	流 <small>なが</small>	食 <small>た</small>	語幹 <small>ごかん</small>
こ こ	★	し し ★	み み		ち ち		べ べ	ウ、ヨウ ナイ 未然形
き き		し し	み み		ち ち		べ べ	タ マス 連用形
		する	みる		ちる		べる	終止形
		する	みる		ちる		べる	トキ 連体形
		すれ	みれ		ちれ		べれ	バ 仮定形
		せし よろ	みみ よろ		ちち よろ		べよ べろ	命令形

↓  
↓  
↓  
↓  
これらは、けっこう特別な活用のしかたをしているので、呼び方も特別。  
次のページで説明するよ♪

★「勉強する」「協力する」の未然形は  
し(ナイ)、し(ヨウ) の他に  
・せ(ズ)  
・さ(セル)  
という形もあるよ。

↓  
「べ、べ、べる、べる、べれ、べろ(べよ)」  
「け、け、ける、ける、けれ、けろ(けよ)」(←「開ける」など)  
のように、すべての活用形に「え」の段が含まれる活用を  
「下一段(しもいちだん)活用」といいます。

└ あいうえお で “う” を真ん中とみると、  
“え” は「一段下」だよな！  
だから「下一段」という呼び方になったんだ…きっと…(想像)  
※本当にそうなのかどうかは、興味ある人は調べてみて！(^▽^)/

↓  
ということは？この「落ちる」「起きる」「見る」のような活用は  
何と呼ばれるのかな？予想してみよう！(°。°；)

※「見る」や「来る」などの語幹(※)は、語幹があるのかないのか微妙…みたいな存在。まあ、あまり気にしないことにしよう(そうしよう)

する	拾う	捨てる	着る	切る	来る	協力する	勉強する	見る	起きる	落ちる	
※			※		※		勉強 べんきやう	※		落 お	語幹 ごかん
★					こ こ	★	し し ★	み み		ち ち	ウ、ヨウ ナイ 未然形
					き き		し し	み み		ち ち	タ マス 連用形
							する	みる		ちる	終止形
							する	みる		ちる	トキ 連体形
							すれ	みれ		ちれ	バ 仮定形
							せしよ しろ	みみよ みろ		ちよ ちろ	命令形

↓  
予想できたかな～？

「上一段活用」だよね！

「かみいちだん」ね♪

「ち、ち、ちる、ちる、ちれ、ちろ(ちよ)」

「み、み、みる、みる、みれ、みろ(みよ)」

のように、「い」の段で活用していくね(^皿^)

↓  
「来る」のような活用を

「カ行変格(かぎようへんかく)活用」(略して「カ変(かへん)」)

「勉強する」「協力する」のような活用を

「サ行変格(さぎようへんかく)活用」(略して「サ変(さへん)」)

といいます。特別な呼び名！

しかも、「カ変」の動詞は「来る」一語だけ！

「サ変」の動詞は「する」が付く動詞だけ！ だいぶ特別なグループなので注意してね( . )φ

📎 練習 📎 これらの動詞を活用させて、「活用の種類」を答えてみよう！ 丁寧にゆっくり考えてね(^o^)

◇◇ ふたばプリント ◇◇

◇続いては「形容詞(けいようし)」と「形容動詞(けいようどうし)」!

「**形容詞**」と「**形容動詞**」、名前が似ているけど、それぞれどんな品詞なのかな?

《例えば、こういう単語が形容詞!》

暑い 寒い うれしい 悲しい 苦しい 大きい 小さい 丸い 四角い  
 熱い 冷たい 厚い 薄い 痛い やさしい 強い 弱い 明るい 暗い  
 涼しい 美しい やかましい おとなしい 大人げない 情けない やるせない

《例えば、こういう単語が形容動詞!》

静かだ 愉快(ゆかい)だ 安全だ 危険だ 素直だ 豊かだ 厳か(おごそか)だ  
 穏やか(おだやか)だ 緩やか(ゆるやか)だ 和やか(なごやか)だ 華やか(はなやか)だ  
 涼やかだ 爽やか(さわやか)だ 健やか(すこやか)だ

↓

つまり、どういう単語が形容詞? どういう単語が形容動詞? 自分の言葉で説明してみよう! >(・▽・)

ヒント: 「涼しい」は形容詞で、「涼やかだ」は形容動詞…なんだね。ということは、  
 意味じゃなくて「見た目」(言い方)で区別しているんだよね! どんな「見た目」(言い方)かな?

( )

…そうそう! たぶんそれ正解!

「涼しい」「涼やかだ」、「暑い」、「静かだ」、このあたりに注目して説明できていれば良いよ(^o^)

教科書の「文法(品詞)」のページではどんなふうに説明されているかな? ぜひ見てみてね♪

※ちなみに、形容詞も形容動詞も「活用」があり、動詞・形容詞・形容動詞をまとめて「用言(ようげん)」と呼ぶよ。

↑「活用」の「用」なんだね(≧▽≦)

📎 **練習問題** 📎 次の文中の \_\_\_\_\_ 線の語が、形容詞か形容動詞かを答えなさい。

- ・ その厚い本はとても重かった。 厚い( ) 重かつ( )
- ・ 晴れた穏やかな日に、おいしいお弁当を持ってピクニックに行き、楽しく、愉快に過ごしたのは貴重な経験だった。 穏やかな( ) おいしい( )  
 楽しく( ) 愉快に( ) 貴重な( )

この問題ができた人は、形容詞と形容動詞の区別はばっちりだね(^▽^)

ところで、次の例文の \_\_\_\_\_ の語は、どちらかは形容動詞だけど、どちらかは形容動詞ではないよ。

・彼は素敵だ。 ・彼は教師だ。 (・▽・) < どうして? 両方とも「~だ」なのに…

↓

実は、「〇〇だ」は、必ずしも形容動詞ではなく、「名詞+だ(助動詞)」という形の場合があるのです。

★ 見分け方は… → 形容動詞ならば、「~な(もの、こと、人)」という形に変えられる(活用できる)!

「名詞+だ」の場合は、「~な(もの、こと、人)」と言い換えることはできないよ。

(^▽^)< ということは、「素敵だ」、「教師だ」、は

どちらが形容動詞で、どちらが「名詞+だ」なのかな?

答えは解答プリントを見てみてね。文法問題でよく問われることがらなので要チェック♪

◇続いては「連体詞(れんたいし)」と「副詞(ふくし)」。

「**連体詞**」と「**副詞**」、よくわからない。苦手。…と思っている人、多いかもしれませんね。

《例えば、こういう単語が連体詞。》

あらゆる いわゆる 聖なる 単なる ひよんな とんだ 我が(わが) たいした  
 去る 来たる …「去る」「来たる」という動詞もあるけど、それとは別物の「連体詞」。  
 この その あの どの … 代名詞じゃないよ! ★①  
 大きな 小さな … 形容詞じゃないよ! ★②

★① 代名詞の「これ」「それ」「あれ」「どれ」に似ているけど、

「この」「その」「あの」「どの」は名詞の代わりにはならないので、代名詞ではありません(^o^)

★② 形容詞は、活用のしかたが「かる、かつ、く、う、い、い、けれ、かれ」(←教科書等の「活用表」で確認してね!)となりますが、この中に「な」(「大きな」の「な」)は入っていないよね。

ということは、「大きな」は形容詞ではないということ! 同じく「小さな」についてもそう言えます。

「大きい」「小さい」という形容詞と一緒にかと思っただけ、形容詞ではないので注意(≧▽≦)

### 連体詞の特徴。

その1 : **活用しない(活用がない)**。未然形、連用形…等と形が変わらない。

例えば、「あらゆる」は、「あらゆるない」「あらゆるます」等とはならないよね!(変だ!!(@▽@))

形が変わることはなく、必ず「あらゆる」という姿で使うよね。これを「活用しない(活用がない)」と言います。

その2 : 必ず、**体言(名詞)を修飾**する。

「修飾(しゅうしょく)」とは、「飾る」こと。「説明」と考えてもいいかな。「つながる」と考えてもいいかも。

例えば、「あらゆる」という連体詞で見ると、

- ここにはあらゆる本がある。      ○ あらゆる本がここにはある。
- 私は世界中のあらゆる国を訪れた。      ○ 私はあらゆる料理を食べ尽くした。

あらゆる…本 あらゆる…国 あらゆる…料理	}	→ 「あらゆる」は、すべて、体言(名詞)につながっているよね。 (どんな本、どんな国、どんな料理…と、名詞を「説明」している)
-----------------------------	---	--------------------------------------------------------------------

× 私は料理をあらゆる食べ尽くした。

→ こういう文はないね。あらゆる…料理、と「あらゆる」が体言(名詞)に正しくつながっていないから、こういう文は存在しないのです(×o×)

上の **囲み** で例として挙げている連体詞の中で、あまり聞いたことのないものもあるかもしれないけど、

「ひよんなことから、彼と知り合った。」 ←「ひよんな」↓「とんだ」の意味は辞書で調べてみて!

「このたびは、とんだことになりまして…」 「先日はとんだ失礼をいたしました。」

「去る六月十日に、第二回定例会議が行われました。」 「来たる八月十日に、第三回定例会議が行われます。」	}	両方とも「日付」を修飾しているけど、 どんな違いがあるかな?
--------------------------------------------------------	---	-----------------------------------

「たいしたケガじゃなくて良かった。」「たいした奴だよ、あいつは。」

→ 下線の語はすべて体言(名詞)。連体詞は体言(名詞)につながる、ということがわかるね♪

以上のような特徴を、どの連体詞も持っています。

└ ちなみに、体言(名詞)につながって(連なって=つらなって)いく、という特徴を持っているから「連体詞」と呼ばれるのだ。呼び名に特徴が出ているよね(^o^)

《例えば、こういう単語が副詞。》

ゆっくり(と) かなり いきなり ひっそり(と) 少し いつも ずばり(と)  
少しも(~ない) たいして(~ない) もし(~なら、~たら)

### 副詞の特徴。

その1 : **活用しない(活用がない)**。未然形、連用形…等と形が変わらない。

例えば、「ゆっくり」は、「ゆっくらない」「ゆっくります」「ゆっくる」等とはならないよね！(「ゆっくる」ちょっとかわいい…笑)

この点は連体詞と同じ。副詞も「活用なし」です。※「ゆっくり」とはなるけど、これは「活用」のうちに入らないよ。注意注意。

その2 : **主に、用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾する**。

└ 連体詞は、ここが「必ず」だったの。連体詞は「必ず」体言(名詞)を修飾するけど、

副詞は、「主に」用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾します。副詞はたまに体言(名詞)なども修飾するよ。

例文1 : 私はゆっくり、その箱を戻した。

↓この「ゆっくり」が修飾する(つながる)のは？

× ゆっくり…その      × ゆっくり…箱

○ ゆっくり…戻した      これが正解♪ 「戻す」という動詞を修飾しているね(^o^)

例文2 : 今年の夏はかなり、東京も札幌も気温が高かったの、母も私も熱中症にかかった。

↓この「かなり」が修飾する(つながる)のは？

× かなり…東京      × かなり…札幌      × かなり…気温

○ かなり…高かった      この文の「かなり」は「高い」という形容詞を修飾しているね(≧▽≦)

× かなり…母      × かなり…私

× かなり…熱中症      × かなり…かかった

(^▽^)< 「かなり…何だ?」「かなり…どうだ?」と探すと、見つけやすいと思うよ♪

★ つまり、連体詞と副詞は、「活用なし」「他の語を修飾する」という点では同じだけど、      ★

★ 修飾する「相手」が違うだね。連体詞→体言を修飾、副詞→主に用言を修飾！φ(. . ) ★

「副詞」はさらに、中学校の教科書だと大きく3つの種類に分けられています(と、思います)。

└ **状態(じょうたい)の副詞**      これはさらに細かく分けられていて…

・頻度(ひんど) : 「いつも」「ときどき」「たまに」等、どれくらいの回数かを表す副詞。

・時間 : 「すぐに」「しばらく」等、時間的にどれくらいかを表す副詞。

・音(擬声語 ぎせいご) : 「がたがた」「わんわん(犬の鳴き声)」等、音をそのまま表した副詞。

・様子(擬態語 ぎたいご) : 「のびのび」「にっこり」等、雰囲気(音は出ていない)で表した副詞。

例) 机をどんどん(と)たたく。 → 音(擬声語)

本をどんどん片付ける。 → 様子(擬態語)      音が出ている、出ていない、の違いね♪

└ **程度(ていど)の副詞**

「かなり」「少し」等、どれくらいの程度か、どれくらいの数・量か、などを表す副詞。

例えば… 10段階のうち、7か8 → 「かなり」 (^▽^)<かなり多い！ (+△+)<かなり痛い！

10段階のうち、2か3 → 「少し」 (+\_+)<少し回復してきた…

このように、(・▽・)<10段階のうち、どれくらい？ という質問に答えるようなイメージ。

でも、このイメージだけで全てまとめられるわけでもないの、他にどんな副詞が「程度の副詞」なのか、教科書に載っている「程度の副詞」の例をよーく見て、自分なりのイメージをつかんでみてね。

└ **呼応(こおう)の副詞** ← 「陳述(ちんじゅつ)の副詞」「叙述(じょじゅつ)の副詞」とも呼ばれるよ。

次のページへ続きます(^o^)/



◇品詞の勉強はこれでラスト！「助動詞(じょどうし)」と「助詞(じょし)」。

「助動詞」と「助詞」。この2つは、「**付属語**(ふぞくご)」と呼ばれます。

一方、No. 1~No. 7までのプリントで学習した品詞(名詞、動詞、形容詞、形容動詞、連体詞、副詞)、さらに接続詞、感動詞、これらの8つの品詞は「**自立語**(じりつご)」と呼ばれます。

助動詞と助詞、の前に、まずは「自立語」と「付属語」についての勉強から… φ(∩o∩)

◇「**文節**(ぶんせつ)」を作ることができるのが、自立語。

↳ 「文節」は、日本語の文を「ね」で区切っていった時にできるまとまり。

※「文節」については、詳しくはまた別に学んで、練習してみてね！

例) 次の日の朝、その男はさっそく新聞を買いに行った。

→ 次の<sub>ね</sub>日の<sub>ね</sub>朝<sub>ね</sub>、その<sub>ね</sub>男<sub>ね</sub>は<sub>ね</sub>さっそく<sub>ね</sub>新聞<sub>ね</sub>を<sub>ね</sub>買い<sub>ね</sub>に<sub>ね</sub>行<sub>ね</sub>った<sub>ね</sub>。

→ 次の | 日の | 朝、 | その | 男は | さっそく | 新聞を | 買いに | 行<sub>ね</sub>った。

★ ★ ☆ ☆ ★ ☆ ★ ★ ★

↓

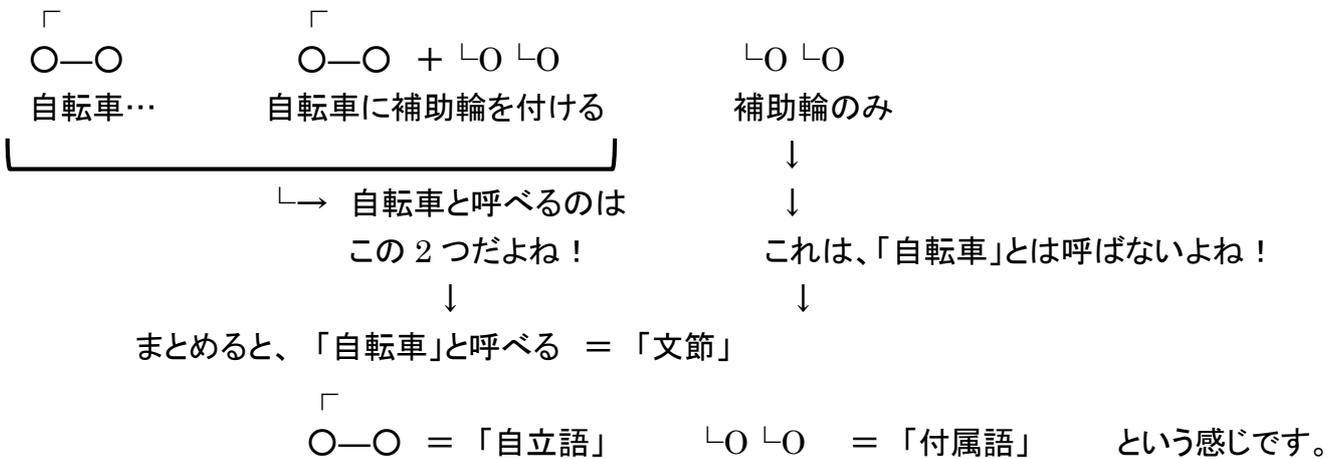
★ は 自立語(この文では名詞または動詞) + 付属語(助動詞または助詞) ] で、「文節」が  
 ☆ は 自立語のみ(この文では名詞、連体詞、副詞) ] できています。

つまり…

↳ 自立語は、自分だけで、あるいは 自分+付属語 という形で、「文節」になれるの。

付属語は、自分だけでは文節になれません。自立語にくっつかないと、文節になれない。

例えて言うなら…



(^▽^)< 自立語 と 付属語、何となくイメージがつかめたかな…

このプリントで学ぶ「助動詞」と「助詞」は、ㄥ〇 ㄥ〇 自転車に付ける補助輪のような「付属語」なので、

「  
○—○ 自転車、つまり「自立語」にくっついた状態じゃないと、文節になることはできないのです！

補助輪は、ㄥ〇 ㄥ〇 これだけで使うことはないもんね…

自転車本体(=自立語)にくっつけてこそ、役に立つ！ それが補助輪=付属語！なのでφ(∩o∩)b

おまけ情報… → 実際の自転車は、補助輪を2組(つまり4つ)以上付けて使うことはないけど、国語の文法では、

動か なかつ た。のように、 「  
自 付 付 ○—○ ㄥ〇 ㄥ〇 ㄥ〇 ㄥ〇 1つの自転車に補助輪を2組以上付けることもあるんだよ(°▽°)

◇助動詞と助詞は、どちらも「付属語」。

《例えば、こういう単語が助動詞。》

～た 例) 動いた 動かなかった 冷たかった 読んだ ←「～だ」という姿になる時もあり。

～ない 例) 動かない 動かなかった 冷たくない 冷たくなかった

～れる(られる) 例) ほめられる 笑われる 怒られた 食べられなかった

《例えば、こういう単語が助詞。》

～と ～が① ～の ～を 例) 君と彼女が①社長の机を運んでくれ。

～が② ～だけ ～など ～な 例) これは難しいが②、君だけは「あきらめる」などと言うな。

↓

～が① と ～が② は別々の助詞だよ！ 意味(役割)が違うよね(^o^)b

↓

さて… 助動詞と助詞の違い、わかるかな？

ヒント:

例えば、助動詞「～ない」は、上の例を見ると、「ない」の他に「なかつ」という形にもなっているね。

助詞はどうか？ 例えば、「～だけ」という助詞は、「だか」とか「だこ」とかのよう形が変わるかな？

(^▽^)< 「君だかは」？ 「君だこは」？

さあ！ 「活用」という言葉を使って説明してみよう！ >(・▽・)

( )

…そうそう！ 助動詞は活用が( )！ 助詞は活用が( )！ んだよね♪

教科書の「文法(品詞)」のページではどんなふうに説明されているかな？ ぜひ見てみてね(^o^)b

◇ということはつまり、助動詞には「活用表」があるということ！

例) ↓○○形、△△形、という「活用形」の種類は、用言(動詞・形容詞・形容動詞)の時と同じだね。

		未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
ない	打消	なかる	なかつ なく	ない	ない	なけれ	○

↳ それぞれの助動詞がどんな「意味」を表すか、が載っているよ。

「○」は「からっぽ」のしるし！ 「ない」という助動詞は、命令形が無いんだね。

◇そして、助詞には「種類」があるよ。

- ・格助詞(かくじょし)
- ・副助詞(ふくじょし)
- ・接続助詞(せつぞくじょし)
- ・終助詞(しゅうじょし)

中学校の教科書では、おそらくこの 4 種類に分けられていると思います。それぞれどんなグループか、どんな助詞があるか、確認してみてね。

↳ また、「並立(へいりつ)」「累加(るいか)」「順接(じゅんせつ)」「逆接(ぎゃくせつ)」など、それぞれの助詞の表す「意味」も載っていると思います。

どんな意味なのかは、「例文」を見てみると、何となくイメージがつかめるのではないかな(・▽・)

★ 自立語と付属語、助動詞と助詞、つかめてきたら、教科書や問題集の練習問題にぜひ挑戦してね(≧▽≦) ★

◇◇ ふたばプリント ◇◇